

平成 28 年度 4 月 1 日訓示

平成 28 年 4 月 1 日

礼文町長 小 野 徹

「近 者 悦 遠 者 来」(孔子)

～ 近き者悦べば、遠き者来たる

これ、まちづくりの基本なり… ～

みなさん、おはようございます。新しい年度を向かえ、新しく職員になられた7人の皆さんに臨時保育士、そして、今日は3人しかおりませんが、これから1年間「地域おこし協力隊」として、頑張ってください職員が全部で6名と、近年にない多くの職員を迎えたところであり、また、春の異動がありましたので多くの職員に人事異動の辞令交付を行いました。いよいよ平成28年度の始まりであります。

まずは、新採用の皆さん、おめでとう。皆さんは大きな夢と希望を持って公務員の道を選ばれたわけであります。いろいろ不安な気持ちを抱えながら、また、期待に胸をふくらませていることと思いますが、皆さんが、今日、町職員としてのスタートを切ったことを嬉しく思いますし、心からお祝い申し上げます。

先ほど皆さんを代表して、石田裕哉君が宣誓をされました。まさしく、その通りであり、特定の方の利益であったり、自分自身の利益を優先したりすることがないように、全体の奉

仕者として、より高い、かつ、強い倫理感が求められ、仕事をしていくうえでの公平性や、常に正しく行っていくということが私達公務員の置かれている立場でございます。

そうした難しさの中で、私たちには、地域を発展させ、町民皆さんを幸せにするという大きな務めがあります。

そこで、最初に私から期待することを3点申し上げたいと思います。

まず1点目は、「好奇心を持ち続けて学習し続けてほしい」ということであります。

皆さんは、これまでいろいろと勉強されてきました。

もちろん学校で学んだことも大事なことでありますが、これから役場職員としてやっていく中では、これまで学んだこと以上に、実際の職場や現場で身につけていくことや自分で学んでいくことが大変重要になります。

特に、私たちの住んでいる礼文島は一番北の島ですから、のん気に過ごしていいのではありません。

いつもアンテナを高く張り、外からのいろいろな情報を取り入れ、それを自分の仕事や職場、そして自分自身の人生にかかしていただきたい。常に好奇心を持ち続け、学ぶことを忘れないでいただきたいということでございます。

2点目は、「ものごとに正面から向き合うこと」であります。これから仕事をしていくなかで、いろいろと大変なことがあります。皆さんの手に負えないこともあるかもしれません。しかし、そうした時でも、やっぱり逃げてはいけません。上司や同僚に相談したりして正面から向き合い、自分の責任を果たす。そういう努力することなんです。もちろん、努力しても町民の皆さんの期待通りにはできないこともあります。

でも、だからと言って、手を抜いたり、あるいは、これは私の仕事でないからと他の人に押し付けてしまったりという風に逃げたら何も前進はしません。

皆さんの進歩もそこで止まってしまいます。ぜひ、いろいろな物事、様々な課題に真正面から向き合って、それを克服

するんだ、そういう姿勢で仕事に取り組んでいただきたいの
でございます。

そして、3点目が、冒頭に「私たちには地域を発展させ町
民皆さんを幸せにするという大きな務めがある」という公務
員としてのミッションのお話をしました。もちろん、皆さ
んには、最大限の努力が求められますが、それ以上に、まず
「職員の皆さんが幸せであってほしい」ということでござい
ます。幸せと実感できない人たちが行政サービスをしても、
決して幸せな行政にはならないだろうと思います。それぞ
れの仕事とは違う分野でも、自分たちの能力を生かして、こ
れから、幸せな礼文町の職員として豊かな人生を歩んでいた
だきたいと願っております。

以上、今日から、新しく仲間になられた皆さんに心からお
祝いを申し上げますとともに、若さあふれるフレッシュな感
覚を発揮し、わが町に活力を出していただくことを心から期
待してこの3つの言葉を贈ります。どうぞ、肩から力を抜
いて頑張ってください。

さて、先ほど人事異動の辞令交付をいたしました。皆さんもご承知のように、今年は「地方創生」が実質的にスタートする年であります。

人口減少が進む今の日本。このままでは田舎から人がいなくなってしまうということで、昨年、わが町でも人口ビジョンと総合戦略を策定して、礼文島の特徴ある豊かな資源を活かした産業振興を実現し、安心して働くことができる雇用の拡大、新しい働く場の創造、さらに子育て世代へも積極的な支援を行って、若者が魅力を感じる町にすること、また、都会から礼文島に、どうやったら、人の流れを呼び込むことができるか、その手立てを考えてきましたが、いよいよ、今年はその戦略を実行に移すことになります。

総合戦略は作ることが目的ではありません。

どうしたら礼文島が元気になれるか、どうすれば若者の希望を叶えることができるのかを実行することであり、それはわが町がひとつにまとまって実行していくことによって初めて実現されるものだと思うのでございます。

そのひとつに「地域おこし協力隊」の取り組みがあります。

去年は 1 名でしたが、今年は 6 名もの方に礼文島においてを頂きました。心から感謝申し上げます。

協力隊の皆さんには、子育て支援や定住対策、観光振興など多くの分野で活躍していただくこととなりますが、決して一人で悩まないで、周りにいる先輩にいろいろと聞きながら進めていただきたいと思います。

職員の皆さんも協力隊の人たちに仕事を任せっきりにしないで、ともに汗をかいて、工夫してほしい。

そして、あの有名な孔子の町づくりの教えを思い出していただきたいのです。

その教えとは「近者悦遠者来（近き者悦べば遠き者来たる）」というものです。

これは、中国の昔、^{ようけん}葉県の^{しょうこう}県知事葉公という人が「政治のポイントは何でしょうか？」と孔子にたずねたときに、孔子はこう答えたそうです。「まずは、あなたの治めている領内の人たちの安全や富、栄えを実現しなさい。そうすれば評判を聞いた遠方の人たちがあなたを慕ってぞくぞくと集まってくることでしょう。」と答えたそうです。

これは、商売においても、地元の人たちから慕われないお店は誰からも見向きもされず、商売にならないことになりま
すから、商売の王道とも云われていますが、政治においては、
良い政治か、悪い政治かのバロメーターになっているもので
ございます。

孔子の教え「近者悦遠者来（近き者悦べば遠き者来たる）」
は、「身近に住んでいる町民の皆さんが喜ぶようなまちを作
れば、遠いまちからもその評判を聞いて、そのまちを慕っ
て人が移り住んでくる」ということ。 こうしたまちづくり
をすることが、行政に携わる全ての職員の仕事に共通してい
ることであり、常に、心に置いて、工夫をしていただきたい
と思うのでございます。

本町には、今年から初めて取組んでいく「元気集団」や「礼
文高校の将来構想」など難しい問題もたくさんありますし、
子育て支援や漁業者支援、観光振興なども然りです。

この「近き者悦べば遠き者来たる」のために、まずは、皆
さんが町民の皆さんの声に注意深く、また、一生懸命に耳を

傾けること、そうすると、相手の気持ちややるべき事が見えてきます。相手の立場に立って物事を考えると信頼関係も生まれます。そして、さらに大事なことは、それを行動に移すことです。実行に勝るものはないのであります。

また、仕事をしていく上で、やりたいこと、なりたいもの、こうありたいという願いは言葉に出していただきたい。

言葉にした瞬間から進む方向が見えてきます。誰かに話したりすることで、思いを具体的な目標にできるのです。

具体的な目標ができれば、今、何をすればいいか、何を選べばいいかわかります。

このように、言葉にすると進むべき道が見え、自分にエンジンがかかる。

思いを言葉にすることで、自分が動きだせるのです。

そして、さらに申し上げれば、「人と人、人と地域の絆を築き上げてほしい」ということでもあります。

職員同士が絆やつながりを築くことで、皆さん個々の力にチームワークという絆がプラスされます。

周りの人たちとの人間関係もスムーズになり、コミュニケーションを深めることが、信頼を生み、役場の中で、ともに助け合い、支え合うことができるようになって、困難な仕事に立ち向かおうという機運が生まれるのです。

大きく変わらなくてもいい。一歩踏み出せば景色が変わるように、少しの勇気と挑戦が皆さんの人生を変えるのです。

役場職員が変わっていくことで、全ての職員がそのプラスアルファされた熱い思いを勇気と元気に変えて、わが町を元気にできるのでございます。

結びに、3月26日に北海道新幹線が開業しました。

海をくぐり、津軽海峡を越えて、新幹線「はやぶさ」が初めて北海道に上陸しました。

構想から実に43年もの長い歳月を経て、夢だったあの緑色の新幹線が希望を乗せて青函トンネルから北の大地を走り抜け、北海道は新しい時代を迎えたのでございます。

夢を叶えるのは簡単ではないけれども、妥協することなく、やり遂げようとすれば夢は必ず叶うのです。

やらない理由を考えるのではなく、どうすれば解決できるのか前向きに考え、工夫することを忘れないでいただきたいのです。

問題を解決しようとする前向きな取組みと皆さん一人ひとりのひたむきな姿勢。そのひとつひとつが積み重なっていくその先に、私は必ず礼文町の明るい未来が開けてくると信じております。

失敗を恐れず、ひるまず挑戦し続けてください。その責任は町長である私が取ります。

どうぞ、私と一緒に、^{みんな}皆の笑顔が輝く元気な礼文町をつくりましょう!!

心から、このことを期待して訓示といたします。